

え そ みやうち
備後国恵蘇郡宮内村庄屋文書 仮目録

広島県立文書館

平成 29 年 (2017) 8 月

凡 例

- 1 本目録には、備後国恵蘇郡宮内村庄屋文書を掲載した。
- 2 目録の各項目は次のとおり。

請求記号 本文書群の群番号は (200801) と、この項目の記号を組み合わせたものが請求記号になる。

【例】 1 → 200801/1

- 表 題** 資料に原表題のあるものはそのまま採り、ないものは適宜付与し〔 〕書きで表記した。
- 年 代** 資料に記された作成年月日を探った。推測または補足した場合は () 書きで表記した。
- 作 成** 資料に授受関係のあるものは→で結んで表記した。
- 形 態** 資料の形態を記した。
- 数 量** 資料の点数を記した。
- 備 考** 資料の状態等、特に留意すべき点があれば適宜記した。

- 3 文書の配列は請求記号順とした。
- 4 利用の参考のため、本文書群の概要を冒頭に記した。

【文書群概要】

備後国^{えそ}恵蘇郡^{みやうち}宮内村庄屋文書（請求記号 200801）

備後国恵蘇郡宮内村の庄屋文書と、広島県鉦山係佐藤雄作の記録。

出所 不明（古書店）

出所地名 備後国恵蘇郡宮内村／広島県恵蘇郡宮内村／広島県庄原市宮内町[現在地名]

旧支配 広島藩領（蔵入地）

分量 8点（8冊）

収蔵までの経緯 東京の古書店から当館研究員西村が購入し、平成 20 年(2008)4 月に寄贈した。古書店の入手先は不明。古書店の案内カタログには、「備後恵蘇郡宮内村庄屋文書」として、「現比婆郡口和町宮内。江戸時代より砂鉄生産地で、文化～明治の御鉄方役所への文書多し。文化 10 年 11 月 18 日～22 日間の第八次伊能測量隊に関する記事一墨付三丁に及ぶ測量方氏名、村方御用記録」と紹介された。

年代 文化 7 年（1810）～明治 12 年（1879）

歴史 原蔵者は不明であるが、「御用控」（No.3）によれば、明治 3 年に宮内村年寄（松島孝三郎）や庄屋（松島浅之助）を勤めていたのは松島家である。ただし No.7・8 の出所は、その作成者である加藤知徳（雄作）と思われる。加藤雄作は、明治 8 年 12 月に広島県から準等外二等鉦山係、奴可郡内京鑪所詰を命じられている。

内容 文化 7 年から明治 12 年までの宮内村「御用控」（天保 13 年～慶応元年分は欠）1 点、鉄穴関係資料 6 点、鉦山係加藤知徳（雄作）の鉄山関係記録 2 点。

検索手段 「広島県立文書館収蔵文書仮目録」

(2012.3 記述／西村 晃)

200801 備後国恵蘇郡 宮内村庄屋文書仮目録

200801/1 〔御用控〕	前後欠 (文化 7～天保12)		横長・1冊
200801/2 〔御用控〕	13×18×4cm, (慶応 2. 2～慶応 4. 2)		横半・1冊
200801/3 御用扣	13×20.5×10cm, 表紙・裏表紙とも摺り切れ, 表題は内題。 明治 3. 霜.(～明治12. 1.)		横半・1冊
200801/4 〔万覚帳〕	13×18.5×2.5cm, 前後欠 (慶応元～明治11)		横半・1冊
200801/5 〔鉄穴算用・普請夫積・飯米仕入願書等控帳〕	前後欠か, 破損あり (慶応 2～ 3)		横長・1冊
200801/6 〔湯木村・宮内村等小内取引算用出入二付取嚙帳〕	前欠, 表紙は破損し「湯」字のみ残る 安政 6. 8	出役下村庄屋嘉太郎外1名→宮内村孝三郎殿	横長・1冊
200801/7 見聴記	9.5×23×3cm 文久 4. 正～(明治 7. 3)	加藤知徳	横半半・1冊
200801/8 鉦山係事務雑誌	9.5×23×1.5cm, 備後国恵蘇郡宮内村之内私地鉄穴場図面2枚を丁間に挿入 明治 8. 12.	加藤氏	横半半・1冊